



社長メッセージ

第2次中期経営計画の推進とサステナビリティ経営の実践

代表取締役社長

西田 洋

当社グループの存在意義(パーパス)

地球規模の気候変動や資源の枯渇といった課題が深刻化する中、エネルギー供給を担う者の責務として、資源とエネルギーの効率的利用を追求し、環境負荷の抑制に取り組むことが重要であると考えています。

当社は1952年に羽田空港における給油事業から始まり、石油、LPガス、化学品、天然ガス、潤滑油販売とこれまでにさまざまな領域に事業を拡大し、社会が必要とするエネルギーや製品を安全・安定的に供給し続け、社会やお客さまと信頼関係を築いてきました。

サステナビリティ経営が求められている今、当社の果たすべき役割はさらに大きくなっています。その役割を果たすべく、「柔軟な対応力で、新しい課題解決に挑戦していくこと」「これまでのつながりに感謝し、それを未来に活かしていくこと」そして「新たな事業領域に挑戦していくこと」この3つを実行していきます。

また、経営理念である「三愛精神」^(注)とコーポレートブランドである「Obbli」が意味する「顧客、地域、社会と共に、良い関係を結ぶ」という精神を核としながら、常に社会に必要とされる企業グループを目指し、継続的に挑戦していくことで真の「人々の生活と産業を支えるパートナー」であり続けます。

三愛オブリグループが果たすべき役割



(注)三愛精神とは、創業者の市村清が唱えた「人を愛し 国を愛し 勤めを愛す」という経営理念

第2次中期経営計画(2024-2026年度)のスタート

2021年に発表した第1次中期経営計画は、『成長実現のための経営基盤の再構築』をテーマに取り組み、そこで掲げた財務目標「経常利益140億円」「ROE 8.0%以上」「配当性向30.0%以上」については、全て達成することができました。一方で、投資計画については、2030年度まで累計1,000億円という目標を掲げましたが、第1次中期経営計画の3年間での実績は236億円(進捗率23.6%)に留まり、これからの課題であると認識しています。

このような中、『戦略の実行と投資の加速』を新たなテーマとし、2024年5月に第2次中期経営計画(2024-2026年度)を公表しました。成長可能性のある事業や人的資本価値向上に向けた取り組みを中心に、資本と人材を積極的に投下していきます。また、当社グループではサステナビリティに関するマテリアリティ(重要課題)として、「気候変動への対応」「エネルギーの安定供給」「ダイバーシティ&インクルージョンほか」「コーポレート・ガバナンス」の4つを特定しています。これらを「事業戦略」と「サステナビリティ経営の実践」の両輪で解決し、2030年度に目指す姿、『低炭素・循環型社会に対応した事業ポートフォリオへの進化』を果たします。

サステナビリティ経営の実践

当社は、「人的資本経営」「DX推進」「低炭素・循環型社会への貢献」の3つを中心に、サステナビリティ経営を実践していきます。

まずは「人的資本経営」についてですが、2024年3月に、「人的資本経営に関する基本的な考え方」を開示しました。当社グループは人材を最大の経営資本と捉えており、「人財力」を高めることが、企業価値の最大化・持続的な発展に繋がると考えています。株主価値向上と同様に人的資本価値の向上にも取り組むことで、当社グループの社員一人ひとりが能力を高め、それを最大限発揮できる環境を整えていきます。

「DX推進」は新中期経営計画の基本方針である「戦略の実行と投資の加速」を推進していくために重要な課題であると認

識し、2024年7月にDX推進委員会を新設しました。今後は、デジタル化・データ活用の高度化を通じて、「業務効率化」「営業改革による売上拡大」「データドリブン経営による経営判断、意思決定の迅速化」をスピード感を持って進めていきます。

「低炭素・循環型社会への貢献」では、TCFDに基づく開示にある通り、当社グループのCO₂排出量を2030年度までに2019年度比30%削減という目標を掲げています。当社グループは、エネルギーを取扱う企業として、気候変動への対応は喫緊の重要課題であると認識していますので、引き続き削減に向けた施策の確実な実行とその進捗も公表していきます。



ステークホルダーとの信頼関係を築く

2024年3月、気候変動や人権課題など社会要請の変化を踏まえ「三愛オブリグループの倫理行動憲章」(以下、倫理行動憲章)を改正し【私たちの行動基準】の見直しを行いました。

経営理念を普遍的価値観・倫理観として位置付けた「倫理行動憲章」は、私たちが判断に迷ったときに立ち返る大切な場所です。そのみならず、「倫理行動憲章」が社員一人ひとりの行動に落とし込まれ、実務に還元されている状態は、他社に真似することのできない当社の独自性、競争力そのものだとも私は考えています。自分たちは何のために存在するのか、何に献身する会社なのか。不確実性の高いこれからの社会を生き抜くために、三愛精神という重要な価値観を改めて見つめなおし、これからもステークホルダーへの価値提供を続けていきます。